

「させぼ温州」の着花（果）促進のための前年秋期の樹体管理法

[要約]若齢樹で生育旺盛な「させぼ温州」は、秋期にマルチ被覆による土壤乾燥とフィガロン乳剤 2000 倍液の散布を行うと、秋芽の発生を抑制し、着花促進を図ることができる。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

普及

平成13年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

させぼ温州若齢樹は、本格的に着果するまでは枝の伸長が旺盛で着花（果）が不安定である。そこで、着花を促進し着果の安定を図るための管理法を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ① 「させぼ温州」の若齢樹に 9 月上旬にシートマルチを被覆することで、樹体に水分ストレスがかかり、無マルチ区より着花数が多くなる（表 1）。
- ② 9 月上旬にフィガロン乳剤 2000 倍液を散布すると、無散布に比べ着花数が増加する（表 1）。
- ③ 秋期マルチとフィガロン乳剤 2000 倍液を散布とを併用すると、マルチ区やフィガロン区に比べ着花数が多くなる（表 1）。
- ④ 無マルチ区は、処理区間の中で着花数が最も少なく、新しょう発生は最も多い（表 1）。
- ⑤ 生理落果終了後の着果数についても、秋期マルチとフィガロン乳剤 2000 倍液散布を併用すると着果数が多くなり結実率が高くなる（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 秋期マルチとフィガロン乳剤を散布し、着花（果）促進・安定を図るためには樹冠拡大を図り優良な結果母枝を増加させておくことが必要である。

[具体的データ]

表1 マルチ被覆・フィガロン散布と着花数、新しょう数 (2001年)

処 理 区	枝径 (mm)	旧葉数 [*] (枚)	着 花 数			新しょう発生数
			有葉花 (個/母枝)	直 花 (個/母枝)	全着花数 (個/母枝)	葉 芽 (個/母枝)
マルチ+フィガロン	7.2	30	7.7a	3.3a	11.0a	6.9
マルチ	6.8	32	3.7bc	0.6b	4.4bc	6.4
無マルチ+フィガロン	7.1	31	5.9b	0.9b	6.8b	7.2
無マルチ	7.4	29	3.4c	0.2b	3.5c	9.4
有意性			**	**	**	ns

注) シートマルチの被覆時期 9月7日～12月7日

フィガロン乳剤の散布時期は9月5日

**は1%水準で有意差あり、*は5%水準で有意差あり

表2 マルチ被覆・フィガロン散布と着花量、新しょう量および着果数、結実率
(2001年)

処 理	着花量 (1～5)	新しょう量 (1～3)	着果数		結実率 (%)
			(個/樹)	(個/母枝)	
マルチ+フィガロン	3.4	2.3	167	0.93	8.4
マルチ	2.5	2.5	68	0.24	5.4
無マルチ+フィガロン	2.4	2.6	68	0.48	7.1
無マルチ	2.7	2.9	62	0.03	0.9

注) 着花量、新しょう量は達観調査による

着果数調査は2001年8月6日実施

[その他]

研究課題名 : 「させぼ温州」の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成13年度(平成11年～14年)

研究担当者 : 古川 忠

発表論文など : なし